

発行元：有限会社ケアバンク

有料老人ホーム美則／デイサービス美則

佐賀市若宮 1-17-65 Tel : 34-4322 Fax : 34-4487

文責：山崎浩史

医療福祉専門学校学生の現場実習…



10月のとある土曜日。佐賀県にある医療福祉専門学校の理学療法学科と作業療法学科 1 年生の介護現場実習がありました。目的の内容は、

①認知症高齢者の現状（軽度と重度の症状の違い）の把握。②認知症高齢者へのスタッフ介入（スタッフがどのような手法で接しているか）の現状を学ぶ。③集団プログラム（レクリエーション）の見学と学生実習を体験する。④施設（有料老人ホームと高齢者デイサービス）の見学です。

朝 8 時すぎ。3 名の実習生が施設に到着。全身からほとばしる緊張感。顔は引きつり、刑場に引き出されたような雰囲気が漂っているなかで現場実習は始まったのです…。

これから綴るのは、その 3 名の学生から実習を終えた感想が届きましたので披露します。



□理学療法学科女子学生

今回の実習での私たちの目的は、認知症の方の軽度と重度について知り、違いと対応を学ぶことでした。しかし、私たちは認知症というものを勝手に軽度と重度に分けていることに気づかされました。気づかないうちに「こういうものだ」と偏見をもっていたのかもしれない。認知症の軽度と重度の方に対してではなく、利用者さん一人ひとりに言葉遣い、話のグレード、雰囲気、間などを変えながら関わることが大切だと学びました。レクリエーションではスタッフの方から「失敗してもいい。死にはしない」の言葉で、今までの不安が吹っ飛び、「とりあえず全力でやろう」と思えました。自分も楽しく笑いながらできました。でもやっぱりスタッフさんはすごかったです。スタッフさんの一言で利用者さんは笑顔になってしまいました。利用者さん一人ひとりのことを知っているからこそできることなんだと思います。この実習ではたくさんのことを学びました。講義で話してくださった、認知症での男女の違いや神様の贈り物の話。ほかにもいっぱい聞いて良かったです。とても考えさせられる 1 日になりました。いろんな視点から広く物事を見れ

るようになりたいです。この課題研究をいいものにできるよう頑張ります。

□理学療法学科男子学生

私は、実習中の講義を聞く前までは、認知症患者に重度と軽度があって、その程度に合わせて対応が違おうと思っていました。しかし、話を聞いてゆくうちに重度と軽度という一括り自体が偏見をもっていたことに気づかされました。レクリエーションの時間では、スタッフの後押しもあり、1 時間という時間が短く感じられました。レクリエーションを終えて気づかされたことは、ただレクリエーションをすることではなく、利用者さん一人ひとりの毎日の気分が違うので、その場の雰囲気を読みとることが大切だと気づかされました。今回の実習のすべてを振り返ってみて、認知症という症状は、治らないものでどうしたら進行を遅らせることが大切で、そのためには孤立を防ぎ、認知症患者について固定観念をもたず、その人の立場に立って物事を考えることが大切だと思いました。

□作業療法学科女子学生

現場実習をして、認知症とは重度と軽度に分かれているものだと思っていました。しかし、この考え方が偏見をもっているのだと気づきました。認知症には軽度、重度ではなく、患者さんと接してゆくなかで顔の表情を見て症状を見極めてゆき、重度、軽度というくくりで対応するのではなく、人それぞれに対して言葉遣い、話のグレード、雰囲気、話の間を変えてゆくことが重要なことだとわかりました。今回訪問して、実際に患者さんと接しておられる職員さんの対応を見て、ユーモアを交えて会話をしたり体操をしていたので、私たちの目標である楽しく予防するというのを間近で見せてもらい、とてもいい体験になりました。しっかり相手の立場に立ち、認知症への固定観念をもたず、自分の考えを押しつけないことが大切なことだとわかりました。なので、今後、認知症患者の方と接するときは、相手を見た目で判断せず、接していくなかでわかってくる部分もたくさんあると思うので、その人のことを知りことを大切に接していきたいと思います。そのためには、普段から人に興味をもつことを忘れずに生活をしていきたいと思います。

フォトギャラリー



10月お誕生日
おめでとうございます

